

ロールス・ロイス、 高付加価値製品製造工場への投資を増額

航空機エンジンの大手メーカー、英ロールス・ロイスは、大型航空機のエンジン部品であるチタン製中空構造のワイド・コード・ファン・ブレード(WCFB)の製造工場をシンガポール北東部にあるセレーター航空産業団地内に設立します。WCFBの工場を英国以外に建設するのは初めてとなります。ロールス・ロイスは、既に同団地内に Trent エンジンの組立工場の建設を予定しており、WCFB 工場はその隣に建設されます。両工場建設への投資総額は約 444 億円(7 億 SGD) 超に増額され、フル稼働の際には、およそ 500 人の技術者が雇用されると見込まれています。

セレーター航空産業団地は、航空産業のサプライチェーンを超えた様々な事業統合を推進することで相乗効果を生み出すビジネス機会創出の場。ロールス・ロイスの進出によりこの魅力はますます高まることとなります。同社のサー・ジョン・ローズ CEO は、「シンガポールはグループ事業の中核となっており、WCFB 製造工場の建設は、私たちが高付加価値製品の製造拠点としてシンガポールに深い信頼を寄せていることを意味している。特に、長年のパートナーである EDB の支援に感謝している」と述べています。EDB では、ロールス・ロイスに続いて他の航空部品メーカーおよびサプライヤーの進出も期待しており、ロジスティクスや精密機械分野などで新たなビジネス機会の創出につながるとみえます。



Trentエンジンの組立工場の建設を予定
【写真提供】ロールス・ロイス社

SIA エンジニアリング、機内エンターテイメント 大手パナソニック アビオニクスと提携

航空機の MRO(整備・修理・点検)を手がける SIA エンジニアリング(SIAEC)は、機内エンターテイメント(IFE: In-Flight Entertainment)システムの大手メーカー、パナソニック アビオニクスと 10 年間のメンテナンスサービス契約を締結しました。同社は 2007 年にもパナソニック アビオニクスと IFE システムの保守・点検サービス契約を結んでおり、今回の契約により、シンガポール航空の全機に搭載されている IFE システムのメンテナンスを一括して行うこととなります。

SIAEC のウィリアム・タン CEO は、「弊社がパナソニック アビオニクスの IFE システムのメンテナンスを委託されたことを光栄に思う。パナソニック独自の知識と我々のサービスで、航空会社はコストの効率性を高めることができるようになる」と述べています。

今年 6 月には仏サジェムと航空電子機器を点検・整備する合併会社をシンガポールに設立する契約も締結しており、高付加価値の航空電子工学やメンテナンス事業で SIAEC の認知度が高まってきていることを示しています。